

令和8年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(共通)

別添

なし

応募概要	分野	音楽	種目	オーケストラ等
	応募区分			一般区分
	複数応募の有無	無	応募総企画数	
	複数の企画が採択された場合の実施体制 ※			

※ 複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません(グレーアウトされます)。

文化芸術団体の概要	ふりがな	こうえきざいだんほうじんおかやまぶんかげいじゅつそうぞう		
	制作団体名	公益財団法人岡山文化芸術創造		
	代表者職・氏名	理事長 越宗 孝昌		団体ウェブサイトURL https://www.ocac.jp/ http://www.okayama-symphonyhall.or.jp/
	制作団体所在地	〒 700-0822	最寄駅(バス停)	JR岡山駅
	制作団体と公演団体が同一である場合はこちらにチェック	<input type="checkbox"/> ※チェックをつけた場合、下記公演団体の情報は記載不要です		
	ふりがな	おかやまふいるはーもにっくかんげんがくだん		
	公演団体名	岡山フィルハーモニック管弦楽団		
	代表者職・氏名	事務局長 高次 秀明		団体ウェブサイトURL http://www.okayama-symphonyhall.or.jp/oka
	公演団体所在地	〒 700-0822	最寄駅(バス停)	JR岡山駅
	制作団体 設立年月	昭和59年11月		
	制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	事務体制 事務(制作)専任担当者の有無	他の業務と兼任の担当者を置く	本事業担当者名	柴田 勲
	経理処理等の監査担当の有無	有	経理担当者	小林 利加
	本応募にかかる連絡先	メールアドレス oka_phil@okayama-symphonyhall.or.jp	電話番号	0862347177

制作団体の実績	<p>制作団体沿革・主な受賞歴</p> <p>【公益財団法人岡山文化芸術創造】</p> <table border="0"> <tbody> <tr><td>1984年11月</td><td>財団法人岡山文化施設整備センター設立</td></tr> <tr><td>1991年 3月</td><td>財団法人岡山シンフォニーホールに名称変更、9月 岡山シンフォニーホール開館</td></tr> <tr><td>1992年10月</td><td>岡山フィルハーモニック管弦楽団設立</td></tr> <tr><td>2000年</td><td>第1回岡山芸術文化賞グランプリ受賞</td></tr> <tr><td>2003年</td><td>第4回福武文化奨励賞受賞</td></tr> <tr><td>2004年</td><td>第1回マルセン文化賞受賞</td></tr> <tr><td>2006年 4月</td><td>指定管理者指定(10年間)</td></tr> <tr><td>2009年</td><td>岡山県教育関係功労者表彰</td></tr> <tr><td>2012年</td><td>山陽新聞奨励賞受賞</td></tr> <tr><td>2013年 4月</td><td>公益財団法人に移行、公益財団法人岡山シンフォニーホールに名称変更</td></tr> <tr><td>2013年 4月</td><td>ハンスイェルク・シェレンベルガー 岡フィル首席指揮者就任(在任期間:3期9年間)</td></tr> <tr><td>2016年 4月</td><td>指定管理者指定(2期目、5年間)</td></tr> <tr><td>2017年 6月</td><td>公益社団法人日本オーケストラ連盟加入(準会員)</td></tr> <tr><td>2017年10月</td><td>首席奏者オーディションの実施</td></tr> <tr><td>2020年 4月</td><td>公益財団法人岡山文化芸術創造に名称変更(財団合併)</td></tr> <tr><td>2021年 4月</td><td>指定管理者指定(3期目、5年間)</td></tr> <tr><td>2023年 9月</td><td>岡山芸術創造劇場(ハレノワ)開館</td></tr> </tbody> </table>	1984年11月	財団法人岡山文化施設整備センター設立	1991年 3月	財団法人岡山シンフォニーホールに名称変更、9月 岡山シンフォニーホール開館	1992年10月	岡山フィルハーモニック管弦楽団設立	2000年	第1回岡山芸術文化賞グランプリ受賞	2003年	第4回福武文化奨励賞受賞	2004年	第1回マルセン文化賞受賞	2006年 4月	指定管理者指定(10年間)	2009年	岡山県教育関係功労者表彰	2012年	山陽新聞奨励賞受賞	2013年 4月	公益財団法人に移行、公益財団法人岡山シンフォニーホールに名称変更	2013年 4月	ハンスイェルク・シェレンベルガー 岡フィル首席指揮者就任(在任期間:3期9年間)	2016年 4月	指定管理者指定(2期目、5年間)	2017年 6月	公益社団法人日本オーケストラ連盟加入(準会員)	2017年10月	首席奏者オーディションの実施	2020年 4月	公益財団法人岡山文化芸術創造に名称変更(財団合併)	2021年 4月	指定管理者指定(3期目、5年間)	2023年 9月	岡山芸術創造劇場(ハレノワ)開館
1984年11月	財団法人岡山文化施設整備センター設立																																		
1991年 3月	財団法人岡山シンフォニーホールに名称変更、9月 岡山シンフォニーホール開館																																		
1992年10月	岡山フィルハーモニック管弦楽団設立																																		
2000年	第1回岡山芸術文化賞グランプリ受賞																																		
2003年	第4回福武文化奨励賞受賞																																		
2004年	第1回マルセン文化賞受賞																																		
2006年 4月	指定管理者指定(10年間)																																		
2009年	岡山県教育関係功労者表彰																																		
2012年	山陽新聞奨励賞受賞																																		
2013年 4月	公益財団法人に移行、公益財団法人岡山シンフォニーホールに名称変更																																		
2013年 4月	ハンスイェルク・シェレンベルガー 岡フィル首席指揮者就任(在任期間:3期9年間)																																		
2016年 4月	指定管理者指定(2期目、5年間)																																		
2017年 6月	公益社団法人日本オーケストラ連盟加入(準会員)																																		
2017年10月	首席奏者オーディションの実施																																		
2020年 4月	公益財団法人岡山文化芸術創造に名称変更(財団合併)																																		
2021年 4月	指定管理者指定(3期目、5年間)																																		
2023年 9月	岡山芸術創造劇場(ハレノワ)開館																																		
<p><学校で開催する音楽鑑賞教室></p> <p>(小編成) 平成5年度から令和5年度まで 延べ1,030公演、297,171名参加</p> <p>令和6年度開催学校</p> <p>岡山市立大元小学校、高梁市立宇治高等学校・小学校、高梁市立川上小学校、総社市立池田小学校、昭和五つ星学園義務教育学校、浅口市立鴨方西小学校、倉敷市立多津美中学校、新見市立大佐中学校、総社市立総社北小学校、矢掛町立小田小学校(他7校合同)、倉敷市立郷内中学校、倉敷市立下津井東小学校、高梁市立川面小学校、高梁市立中井小学校、倉敷市立連島南小学校</p> <p>(オーケストラ編成) 平成5年度から令和5年度まで 延べ72公演、32,570名参加</p> <p>令和6年度開催校 鏡野町立鶴喜小学校、美作市立大原小学校</p> <p><ホールで行う音楽鑑賞会></p> <p>(岡山市小・中学校音楽鑑賞教室:オーケストラ編成)</p> <p>平成11年度から令和7まで 延べ46公演、52,382名参加</p> <p>令和7年度参加校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡山市立平島小学校、岡山市立旭東小学校、岡山市立伊島小学校、岡山市立平福小学校、朝日塾中等教育学校、就実小学校、岡山理科大学附属中学校 <p>(真庭エスペスプレゼントコンサート:小編成)</p> <p>令和6年度参加校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・真庭市立遷喬小学校、真庭市立米来小学校、真庭市立草加部小学校、真庭市立樺邑小学校、真庭市立余野小学校、真庭市立湯原小学校、真庭市立久世中学校、真庭市立中和小学校、真庭市立川東小学校、真庭市立美川小学校、真庭市立天津小学校、真庭市立河内小学校 																																			
<p>【令和6年度】</p> <p>(小編成) 岡山県立倉敷まきび支援学校、倉敷市立倉敷支援学校、岡山県立早島支援学校 (アンサンブル) 長島愛生園、岡山県立岡山支援学校</p> <p><ホールで行う音楽鑑賞会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・(アンサンブル) NPOポケットサポート ・(岡山市小・中学校音楽鑑賞教室 オーケストラ編成) 岡山市児童生徒支援教室 																																			

参考資料	申請する演目のWEB公開資料	無
	※公開資料有の場合URL	
	※閲覧に権限が必要な場合のID及びパスワード	ID: PW:

別添	あり			
【公演団体名 岡山フィルハーモニック管弦楽団】				
対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○	中学生	○
企画名	オーケストラを身体で感じる！～見て、聴いて、関わって、表現しよう～			
企画のねらい	<p>50人を超えるオーケストラが目の前で奏でる生の演奏を、全身で浴び、演奏に参加することで音楽に関わる体験をすることを目的とする。</p> <p>鑑賞の場とするばかりでなく、子どもたち一人一人が身体を使い音を奏で、リズムを生み出し、動き、歌うことで音楽を作り出していくことを知覚してもらうことを目標としている。さらに、合唱としてオーケストラと共に演することで、プロ奏者とともに「音楽を作る」体験を共有してもらい、最終的に「ラデツキー行進曲」で会場全体が一体となって終わる構成とした。「音楽の楽しさ」を自分自身でも作り出すことができる自覚を引き出すことで、本公演を音楽の創造体験とすることを目指す。</p>			
演目概要・演目選択理由	<p>【導入部】①、②、④はクラシック音楽の「入口」として親しみやすく、華やかで分かりやすい旋律の曲を、本格的なクラシック音楽であり小学生・中学生いすれも聴いたことのある曲目から選曲した。</p> <p>【WS連動・体験部】⑤はボディパーカッションに適したアップテンポで明確なリズムを持つクラシック曲から、学年ごとの発達段階に合わせた曲目を選曲した。⑥は変化するリズムを指揮者として操る体験をしてもらうべく、変化に富み独特の「間」を有する曲目を選曲した。</p> <p>【鑑賞部】⑦は岡山のシンボル岡山城築城400年を記念した曲目。江戸時代から岡山に伝わる「こちやえ」の節が組み込まれた和洋折衷な曲であり、日本の歴史・伝統をオーケストラ演奏で感じができる曲として選曲した。</p> <p>【WS連動・体験部】⑧(WSと連動)、アンコールは、本公演を通じて高揚感と達成感を得ることのできる曲目として選曲した。</p>			
児童・生徒の参加または体験の形態	<p>①②③④⑦は鑑賞形式での体験である。曲目や楽器の説明を加え、音楽やオーケストラへの理解を深める目的である。</p> <p>⑤⑥⑧はWSと連動した演奏への参加を伴う体験である。ボディパーカッションで身体を動かすこと、指揮者体験でオーケストラの仕組みと共にリズムやテンポの変化を知ること、「フィンランディア」では、WSで子どもたち自身で作った新しい歌詞での歌唱など、創作表現による合唱参加を通じ、プロの演奏者と共に音楽を作り出す体験を得てもらうことが目的である。</p>			
児童・生徒の参加可能人数	本公演	参加・体験人數目安	制限なし	
		鑑賞人數目安	制限なし	
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>① モーツアルト:『フィガロの結婚』より「序曲」(4分) ② J.シュトラウス2世:「春の声」(6分) ③ 【楽器紹介】各ソロで紹介(8分) ④ チャイコフスキイ:オペラ『エフゲニー・オネーギン』より「ポロネーズ」(5分) <休憩 10分> ⑤ 【ボディパーカッション、踊りで参加・WS連動】 (小学校)オッフェンバッケ:「天国と地獄」(10分) (中学校)バーンスタイン:ウエストサイドストーリー・メドレー(10分) ⑥ 【指揮者体験】プラームス:ハンガリー舞曲5番(10分) ⑦ 小六禮次郎:「烏城浪漫」 ⑧ 【歌のワーク・WS連動】シベリウス:交響詩「フィンランディア」(8分) Enc J.シュトラウス1世:ラデツキー行進曲(3分)</p>			
	公演時間	85	分	
出演者	<p>【指揮者】(調整中)</p> <p>【管弦楽】岡山フィルハーモニック管弦楽団</p> <p>(弦楽器／第1ヴァイオリン 8名、第2ヴァイオリン 6名、ヴィオラ 4名、チェロ 4名、コントラバス 3名 木管楽器／フルート3名、オーボエ 2名、クラリネット 2名、ファゴット 2名 金管楽器／ホルン 4名、トランペット 3名、トロンボーン 3名、チューバ 1名 打楽器／ティンパニ 1名、打楽器 3名、ハープ 1名 合計50人)</p> <p>【司会・ワークショップ連動プログラム 指導】1名</p>			
演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名	<p>【指揮者】(調整中)</p> <p>【コンサートマスター】入江洋文、近藤浩子、長坂拓己、田中郁也</p> <p>【司会・ワークショップ連動プログラム 指導】古橋果林</p> <p>2016年 東京藝術大学音楽学部楽理科 卒業</p> <p>2019年 東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科修士課程 修了</p> <p>2017年～現在 東京文化会館ワークショップ・リーダーとして多数のワークショップを企画・出演</p>			
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人 数含む	出演者: 52 名 スタッフ: 10 名 合 計: 62 名	運搬	積載量: 2 t 車 長: 6.5 m 台 数: 1～2 台	

本公演会場設営の所要時間(タイムスケジュール)の目安	前日仕込		無	前日仕込所要時間		時間程度		
	到着	仕込	上演	内休憩	撤去			
	9:00	9:00~10:30	13:00~14:00	10	14:30~15:30	15時30分		
※本公演時間の目安は、概ね2時限分程度です。								
本公演実施可能日数目安	6月		7月	8月		9月		
	10月		11月	12月		1月		
※平日の実施可能日数目安をご記載ください。				計	10日			
本公演・ワークショップの内容	 <p>会場全体</p>			 <p>ボディパーカッション</p>				
	 <p>楽器紹介</p>			 <p>楽器紹介</p>				
	 <p>指揮者体験</p>			 <p>歌・WS連動</p>				
	<p>○オーケストラ展開場所：体育館舞台下を想定 ○フロア占有面積：（幅）11~15m×（奥行）7~10m ※体育館の大きさに応じて打ち合わせ時に調整します。 ※舞台袖、舞台上、オーケストラ展開部分の両横などを、楽器ケース置き場・楽員の待機場所として使用します。 ○お借りする備品：人数分のパイプ椅子、長机数台、目隠しとなる衝立・卓球台など（事前確認にてご相談させていただきます） ○持ち込み備品：指揮台、指揮者譜面台、演奏者譜面台 など ●本公演では、ボディパーカッションと歌で、オーケストラと共に演ずるワークショップがメインプログラムとなります。共演に関して、学校側であらかじめご用意いただくものはございません。</p>							
	各種上演権、使用権等の許諾手続の要否			該当あり	該当コンテンツ名			
	該当事項がある場合	権利者名	ジャスラック	許諾確認状況	採択後手続き予定			
	※A4判3枚以内に収まるように作成してください。							

別添

なし

【公演団体名 岡山フィルハーモニック管弦楽団】

ワークショップの内容	ワークショップのねらい	<p>オープニング演奏で生の声・生の音による身体表現で集中力を高め、ボディパーカッションや動きで本公演の演奏曲目への理解を深めるとともに、曲に含まれる要素を全身を使って表現しながら学ぶことがねらいである。</p> <p>本公演のメイン曲である「フィンランディア」をもとに、①作曲の背景を理解する、②曲想をボディパーカッションや楽器・身体を使って表現する、③子どもたち自身の言葉を合唱として表現しオーケストラとともに歌うなどの段階を経ることで、「音楽を作る」体験を重ね、作品への理解を深めることを目的とする。</p> <p>「自分が関わった音楽」として本公演を体験することができるよう、ワークショップを本公演参加への準備として開催する。</p>		
	児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人數目安	上限を定めない
	ワークショップ実施形態及び内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ時間 全体90分(※休憩時間を除く。※時間配分は学校と相談の上決定する。) ・楽器編成:MC、ピアノ、ヴァイオリンorフルート、打楽器+スタッフ2名 ・内容 <ul style="list-style-type: none"> ① オープニング演奏 ※曲目は編成によって検討(約5分) :目の前で生の演奏を体験。 ② アイスブレイク ※曲目は編成によって検討 (約10~15分) :音・声・身体を使った表現の紹介と体験。 ③ 【本公演と連動】ボディパーカッション+体を動かそう (約25分) :身体を叩き・動かすことでリズムや音の強弱を生み出し、動きを用いて曲の要素を体験する。 本公演で演奏予定の作品への理解を「身体」を通して深め、本公演での音楽への参加準備とする。 (小学校)オッフェンバッカ作曲「天国と地獄」 (中学校)バーンスタイン作曲「ウェストサイドストーリー」メドレー ④【本公演と連動】創作・即興(フィンランディアをもとにした音楽づくり)(約45分) :シベリウス作曲「フィンランディア」を課題曲とし、曲の持つ背景や表現された感情・情景を、身体表現や楽器のしようと通じて学ぶ。 導入⇒表現⇒全体合奏と段階を設けており、学年に合わせて最終目標を変えつつも、クラシック音楽の演奏に参加するための足がかりとする。 ● 導入(作曲背景の共有) シベリウスが《フィンランディア》を作曲した背景を短く紹介する。 ● 【表現①】:苦難・悲嘆 低い音、ゆっくりしたリズム、手で床を叩くなどで「重さ・苦しさ」を表現。 (学校にある楽器の使用、楽器が難しい場合はボディパーカッションや床を叩く、息を吐く声を使うなどで工夫。※学校にある楽器の中から使用を希望する楽器があるか、事前に聞き取りを行う。) ● 【表現②】:闘争・蜂起 速いリズム、強いアクセント、掛け声で「立ち上がる力」を表す。 (学校にある楽器の使用、楽器が難しい場合はボディパーカッションやかけ声などにて表現。) ● 【表現③】:祖国への愛・希望(歌) フィンランディア賛歌の旋律を使い、子どもたちが自分の言葉をのせる。 テーマ例:「友だち」「学校」「夢」「地域」など、自分たちの大切なもの。 → できあがった言葉を旋律に合わせて歌う。 ● 全体合奏(まとめ) 【表現①】～【③】をつなげて一つの流れを作る。 「苦難→闘争→希望」のミニ《フィンランディア》を、声・体・楽器でみんなで奏でる。 最後は全員で「希望の歌」を歌って終わる。 【目的】 小学生は音の表現(遊び感覚・身近なテーマ)を体験することを目的としており、中学生はより歴史背景にも具体的に触れ、音の表現(社会性・自己表現)を学びながら体験することをねらう。 		
その他ワークショップに関する特記事項等	<p>学校にある楽器(音楽室など)や、児童・生徒の持つ楽器を加えて、ワークショップに参加することができる。また、楽器を全く持たずに参加することもできる。学校にワークショップ開催日までに聞き取りを行い、学校の希望に即して楽器の使用・不使用を検討する。</p> <p>また、ホワイトボードに、子どもたちが考えた言葉を板書し、全体合奏までのまとめとする。</p> <p>ピアノの使用が必須となる。</p>			

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添

なし

【公演団体名 岡山フィルハーモニック管弦楽団】

記載方法等

例年、実施校の状況等により公演実施要件を満たさないことに起因するトラブルが一定数生じています。※以下は、過去実際にあった例です。

- ・会場が狭く、予定していた規模の公演が実施できなかった。
- ・搬入車両が構内に入れず、搬入のための追加費用が生じてしまった。
- ・児童・生徒が時間外の練習を行うことができず、児童・生徒の体験の範囲が限定的なものとなってしまった。

上記のように、公演実施要件を満たさない学校とのミスマッチングを防ぐため、公演実施に際して必要な条件を御記載ください。

任意項目については、学校に伝えるべき条件がない場合には記載不要です。

詳細な実施条件は、実施校との調整段階にて直接確認をいただくことになります。

なお、特段条件を必要としない項目や未定の項目については「条件なし」を選択、または記入してください。

(必須) 公演実施にあたり、必要な会場条件を記載してください。

会場の設置階の制限 2F以上不可 主幹引き込み電源容量 A以上

舞台設置面積

間口 15 m 奥行 10 m

高さ 2 m

舞台設置場所

フロア対応 可 学校のステージでの対応 条件が合えば可

搬入間口の広さ

幅 1.3 m 高さ 1.9 m

遮光の要否

遮光要件なし 縦帳の要否 有無のみ確認したい

ピアノの使用について

必ず使用する ピアノを使用する場合の設置位置の指定 なし

ピアノを使用しない場合の移動の要否 要

搬入車両(トラック等)の横づけ

必須 トランク横づけ不可の場合の 搬入対応可能距離 m以内

搬入車両の種類

大型トラック 台数 1台

搬入車両の大きさ

車幅 2.5 m 車長 9 m

備考

上記トラック(4トンロング)乗り入れ不可の場合は、2トンワイドロング車2台使用(車幅2.2m 車長6.6m)

※表から数値を取得しますので、セルの結合や行の挿入・削除は行わないでください(幅や高さの調整は問題ありません)。

(任意) 学校からの提出を求める資料がある場合のみ記入してください。

会場図面の提出要否 要

その他提出が必要な資料
(搬入間口や搬入経路の写真の提出等) 会場図面、学内地図(控え室位置、搬入経路がわかるもの)

学校からの情報

(任意)

万が一、ワークショップや本公演のための児童・生徒の練習や製作物の作成に係る時間が、ワークショップや本公演の時間以外に別途発生する場合については、必要となる練習時間や製作時間等を必ず明示してください。

なお、一部の児童・生徒のみが授業を抜けてリハーサル等や練習を行う必要がある場合は、実施校とのトラブルを避ける観点からもその旨を必ず記載してください。

※上記の際は、対象となる児童・生徒の保護者の方への事前連絡や御了承を得る必要があるか否か等含め学校と十分に調整をしてください。なお、その際、代表以外の児童・生徒へもご配慮ください。

時間外対応

	対象	所要時間(分)	時間帯	内容	備考
ワークショップ	ワークショップ				
	ワークショップ				
	本公演				
	本公演				

個別確認事項

(任意)

上記条件や資料以外に、公演実施に当たって学校へ個別の確認が必要な事項がある場合、記載してください。

個別ヒアリング事項

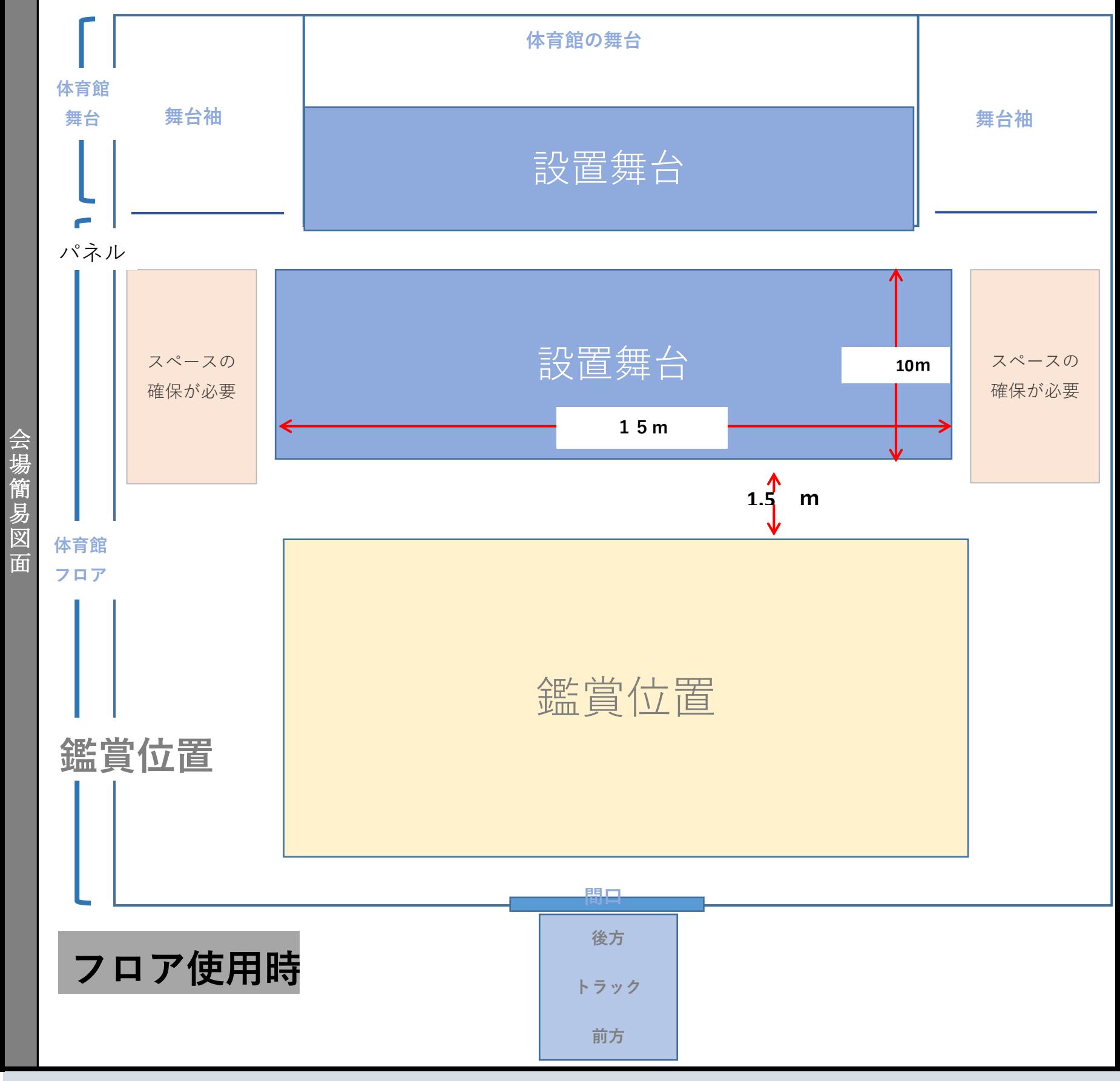
1 ワークショップについて、学校にある楽器や児童・生徒の有する楽器のうち、ワークショップで使用を希望する楽器があるか。

2 ワークショップについて、開催場所(体育館)に使用可能なピアノ、ホワイトボード(またはそれに近い物)があるか。

3 学内の地図・搬入口・体育館の図面の共有と、特別に配慮すべき事柄の有無。

(任意) 会場条件について最低限必由奈条件がある場合、簡易図面を記載してください。

※搬入に関する条件の詳細については、上記の会場条件欄にて確認してください。



別添

なし

【公演団体名 岡山フィルハーモニック管弦楽団】

】

本事業への応募理由等	<p>【本事業を通じて実現したいこと】</p> <p>音楽(特にクラシック)への興味関心を深め、演奏に加わった・自分自身の中から音楽や音を作り出したという達成感と満足感を得てもらう。会場全体で一体となる体験を得ることで、次のような過程を経て、「音楽は楽しい」「また生の音楽に触れたい」「目の前でオーケストラを聴いてみたい」と思う気持ちを育てたい。</p> <p>①クラシック音楽の入口として親しみやすい選曲により、クラシックへの壁を低くする。子どもたちが初めて聴いた瞬間のワクワク感を大切にする。 ②楽器紹介、体験コーナー、歌による主体的な関わりと創造性、そしてオーケストラと一緒に実現する達成感を目指す。 ③学年ごとに発達段階に合わせてアレンジを加えることにより、参加意欲を高める。 ④演奏時に子ども達が高揚感と達成感を最大限体験できることを目指す。</p> <p>【上記の実現に向けて、実施の工夫】</p> <p>選曲は、小学校から中学校の音楽の教科書でも紹介されている音楽と、有名作曲家の曲ながら初めて耳にするだろう曲の2種類を混ぜて構成している。特に導入部は華やかでわかりやすい旋律曲を配置しており、子どもたちが知っている曲では親しみ易さを促し、知らない曲ではその中にある普遍的な面白味を体感してもらうことを目的とした。</p> <p>WSとの体験を2曲設けており、事前の説明やチャレンジがあることで、クラシックやオーケストラへの関心を深めてもらうと共に、自分自身が演奏に加わったという体験により強烈な達成感を促すよう工夫している。</p> <p>アンコール曲は、ニューイヤーコンサートでもお馴染みの「ラデツキー行進曲」としており、演奏家と観客が一体化する体験を通して、オーケストラ演奏の魅力を体験してもらう構成とした。また、「ラデツキー行進曲」は、クラシック曲として定番の1曲であり、今後の子どもたちのクラシック体験の中でも遭遇する確率の高い曲として選曲している。今回の経験が、身の回りのクラシック音楽や楽器に目を向けるきっかけをうみ、コンサートホールで再び「ラデツキー行進曲」の生み出す一体感を得てもらう機会が来ることを願い選曲した。</p> <p>【学校との連絡調整について】</p> <p>電話・メール・FAXによる連絡ツールにより、WSおよび本公演のタイムスケジュールの共有を行う。「フィンランディア」のメロディーについては、学校側が復習を希望する場合に単音の音源データの提供を行う。</p> <p>【対象児童・生徒に応じた工夫や留意点について】</p> <p>学校との情報共有において、児童・生徒の傾向について学校から聞き取りを行う。時間配分や休憩のタイミングは、学校の希望にできるだけ即し、対応する。 特にWSの内容、進め方については、本公演との連動についての意見を共有し、各学校ごとに最も効率的なシナリオを提示する。</p> <p>【本公演等実施後の児童・生徒への継続的な学びについて】</p> <p>公演プログラムに於いて、演奏曲目の背景や特徴をまとめた紹介文を掲載し、公演終了後も継続的な学びに使用可能な教材として配布し、公演後も子どもたちがクラシック音楽に対して親しみを持てるようなアプローチの一助となるようにする。</p>
	【対象児童・生徒に応じた工夫や留意点について】
	【本公演等実施後の児童・生徒への継続的な学びについて】

一般区分・特別エリア区分共通

別添 ※別添は1企画当たり3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先	No.2	【公演団体名 岡山フィルハーモニック管弦楽団】
本公演プログラムの意義 と特徴	<p><本公演プログラムの意味・特徴></p> <p>1. クラシック音楽の「入口」として親しみやすい選曲 モーツアルト「フィガロの結婚」序曲やJ.シュトラウスⅡ世「春の声」、チャイコフスキイ「ポロネーズ」は、華やかで分かりやすい旋律の曲として導入部に配置した。 小学生・中学生いずれも聴いた瞬間にワクワクできる感覚を大切にしながらも、本格的なクラシック音楽を体験できる場とするために、子どもたちの興味関心を強く引き、高揚感をもたらす曲目を選曲している。</p> <p>2. 多様な音楽体験を組み込んだ構成 ・【楽器紹介】奏者一人ひとりの個性や楽器の音色を知る。 ・【体験型】ボディパーカッション、踊り、指揮者体験を通して単なる「観客」から児童・生徒を「参加者」へ変える曲目として選曲した。ワークショップとの連動も加味し、参加型ワークを通してクラシック音楽の要素を自身の身体で体験し、より深い理解を促す。 ・【歌のワーク】シベリウス《フィンランディア》では、ワークショップで音楽作りを通して作品を理解し、より身近に音楽を聴く時間を期待できる。また、子どもたち自身で作った新しい歌詞での歌唱など、音楽の創造体験につなげる。</p> <p>3. 学年ごとの発達段階に合わせた違い ・小学生向け：テンポが速く、分かりやすいリズムの「天国と地獄」で楽しく身体を動かす。 ・中学生向け：少し大人びた響きを組み込み、多彩な音楽世界を体験。</p> <p>4. 地域性・オリジナリティのあるプログラム ・小六禮次郎「鳥城浪漫」を取り上げ、岡山フィルハーモニック管弦楽団の地元に根ざした作品を紹介。日本人作曲家による音楽に触れることにより、クラシック音楽を「自分たちの文化」として実感できるきっかけを作る。</p> <p>5. 終演後の高揚感と達成感 ・最後に「フィンランディア」で「音楽を作る」創造体験を共有し、アンコールの「ラデツキー行進曲」で会場全体が一体となって終わる構成。 ・オーケストラ文化に触れる体験を通して、作品への理解を受け身ではなく主体的に、そして身体的にも実感することで、「聴いた」だけではなく「関わった音楽」として学びを深めていきます。</p>	